

白銅株式会社(7637)

2025年3月期第1四半期 決算説明資料

2024年8月9日

目次

1. 2025年3月期第1四半期 決算内容	P.2
2. 2025年3月期 業績予想	P.17
3. 重点戦略の実施状況	P.21
4. サステナビリティ経営の取り組み	P.26

2025年3月期第1四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

15,745百万円
(前年同四半期比7.0%)

売上総利益

2,677百万円
(前年同四半期比21.1%)

経常利益

996百万円
(前年同四半期比44.9%)

2025年3月期第1四半期サマリ

<売上高>

- ・半導体製造装置業界向けの販売量が増加したことを主因とし、売上高は前年同四半期比7.0%増収。
- ・海外セグメントにおいても、円安による増収効果や中国の需要回復などにより前年同四半期比で475百万円増加。

<売上総利益>

- ・売上高増加による増益に加え、棚卸資産影響額による差益が前年同四半期比で46百万円増加した影響もあり、前年同四半期比21.1%増益。

<経常利益>

- ・運賃や人件費等の各種コストの上昇や、営業外収益の減少はあったものの、増収等の影響が大きく、前年同四半期比44.9%増加。

連結損益計算書（PL）サマリ

- 売上高は、半導体製造装置業界およびOA機器業界向けの販売回復等、販売重量増加並びに販売単価上昇の影響が大きく、前年同四半期比1,028百万円の増収。
- 経常利益は、増収の影響や棚卸資産影響額による差益が発生したことを要因とし、前年同四半期比308百万円の増益。

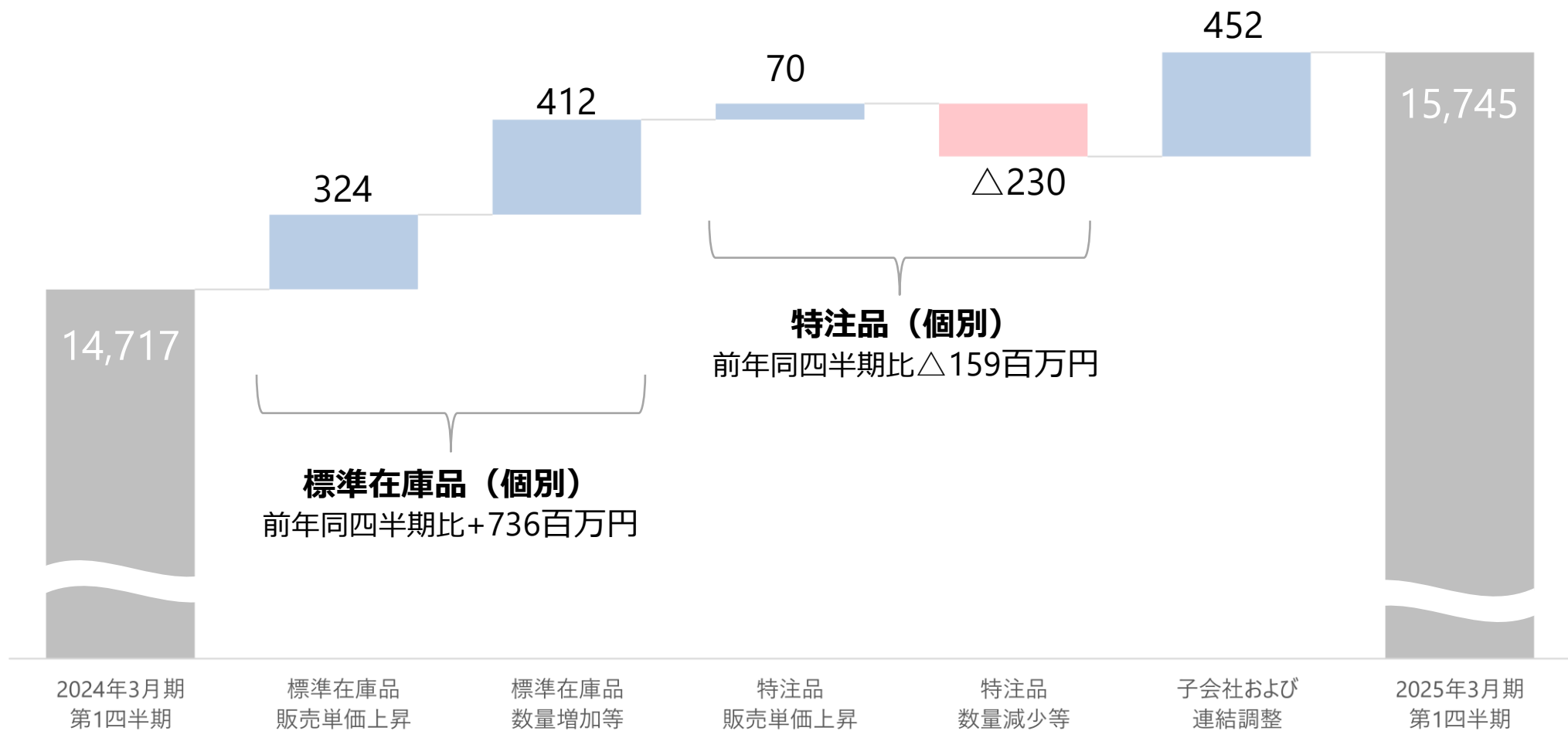
（単位：百万円）

	2024年3月期 第1四半期	売上高 比率	2025年3月期 第1四半期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	14,717	-	15,745	-	7.0%	1,028
標準在庫品	8,747	59.4%	9,497	60.3%	8.6%	749
特注品	5,970	40.6%	6,248	39.7%	4.7%	278
売上総利益	2,211	15.0%	2,677	17.0%	21.1%	466
営業利益	551	3.7%	868	5.5%	57.7%	317
経常利益	687	4.7%	996	6.3%	44.9%	308
棚卸資産影響額 (△は損)	△2	-	43	0.3%	-	46
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	689	4.7%	952	6.0%	38.1%	262
親会社株主に帰属する 四半期純利益	473	3.2%	688	4.4%	45.3%	214

売上高の前年同四半期比差異要因

- 原材料市況の影響等による標準在庫品の販売単価の上昇に加え、販売数量増加の影響が大きく、標準在庫品（個別）の売上高は、前年同四半期比736百万円の増収。

(単位：百万円)

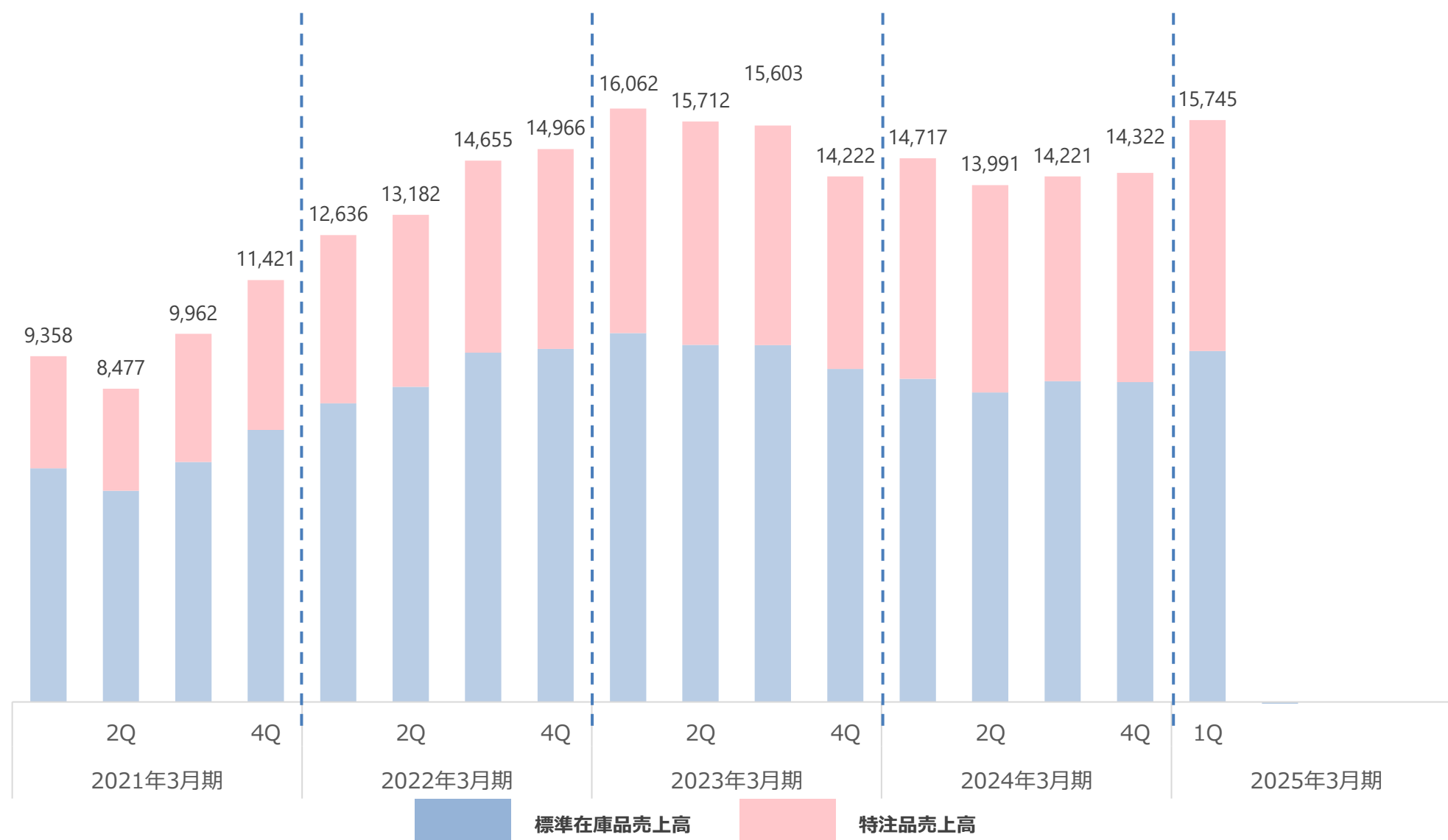


前年同四半期比 白銅個別標準在庫品 販売重量：+4.8 % 販売単価：+3.6 %

売上高の四半期毎推移

- 半導体製造装置業界の停滞により2023年3月期4Q以降低調に推移も、2025年3月期1Qは、前四半期(4Q)対比で1,423百万円の増収と、回復の兆しが見られた。

(単位：百万円)



品種別売上高

- 販売量の増加および原材料価格上昇による販売単価上昇等もあり、全品種において前年1Q期間比で増収となった。

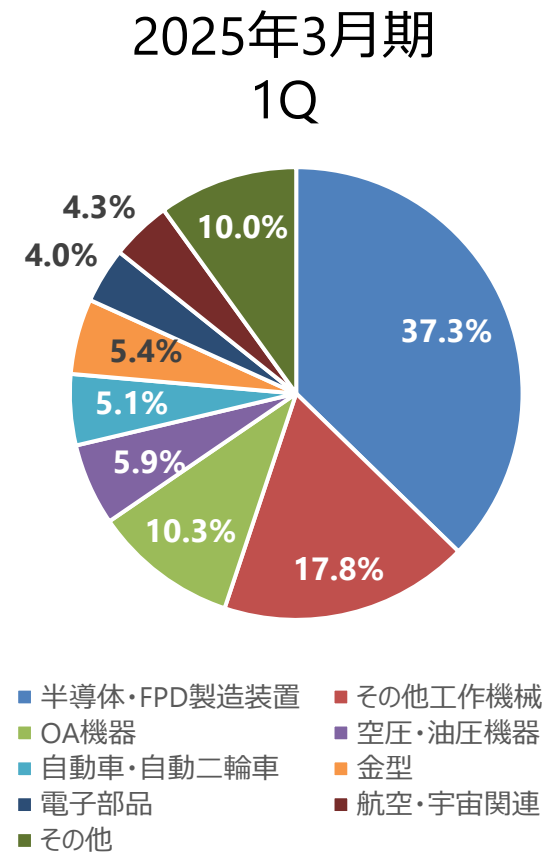
(単位：百万円)

	2023年 3月期				2024年 3月期				2025年 3月期 1Q	前年 1Q期間 比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
連結売上高	16,062	15,712	15,603	14,222	14,717	13,991	14,221	14,322	15,745	7.0%
アルミニウム	10,694	10,249	10,076	8,800	9,060	8,339	8,244	8,587	9,363	3.3%
伸銅	2,106	2,010	2,134	2,248	2,138	2,024	2,126	2,141	2,442	14.2%
ステンレス	2,565	2,607	2,632	2,414	2,830	2,971	3,074	2,947	3,061	8.1%
その他	696	844	761	759	687	655	774	645	878	27.8%

業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置向けの売上高構成比率および売上高が前四半期(4Q)対比で増加。
- その他工作機械、自動車・自動二輪車、金型業界では、売上全体が増加したため売上高構成比率は減少も売上高は増加。
- 重点戦略業界である、航空・宇宙関連業界向けは、比率および売上高も増加傾向。

		2024年3月期					2025年 3月期
		1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q
半導体・FPD 製造装置		39.3%	38.5%	36.2%	36.4%	37.6%	37.3%
その他工作機械		17.7%	17.7%	18.3%	18.0%	17.9%	17.8%
OA機器		8.9%	9.0%	8.8%	11.6%	9.6%	10.3%
空圧・油圧機器		7.1%	5.5%	5.7%	5.4%	5.9%	5.9%
自動車・自動二輪車		4.7%	5.9%	6.3%	5.1%	5.5%	5.1%
金型		4.8%	5.5%	5.6%	5.4%	5.3%	5.4%
電子部品		4.1%	4.3%	4.2%	4.3%	4.2%	4.0%
航空・宇宙関連		4.4%	3.8%	4.6%	4.1%	4.3%	4.3%
その他		9.0%	9.6%	10.3%	9.7%	9.6%	10.0%



セグメント別業績

- 北米では31百万円の営業損失を計上したものの、円建て親子ローンの為替差益等の営業外収益により32百万円の経常利益を計上し、前年同四半期比で69百万円の増益となった。
- 中国では、需要回復により売上高が増加するも利益率改善には至らず、5百万円の営業損失となった。
- その他セグメント（タイ）では経常利益は前年同四半期比で7百万円の増益。

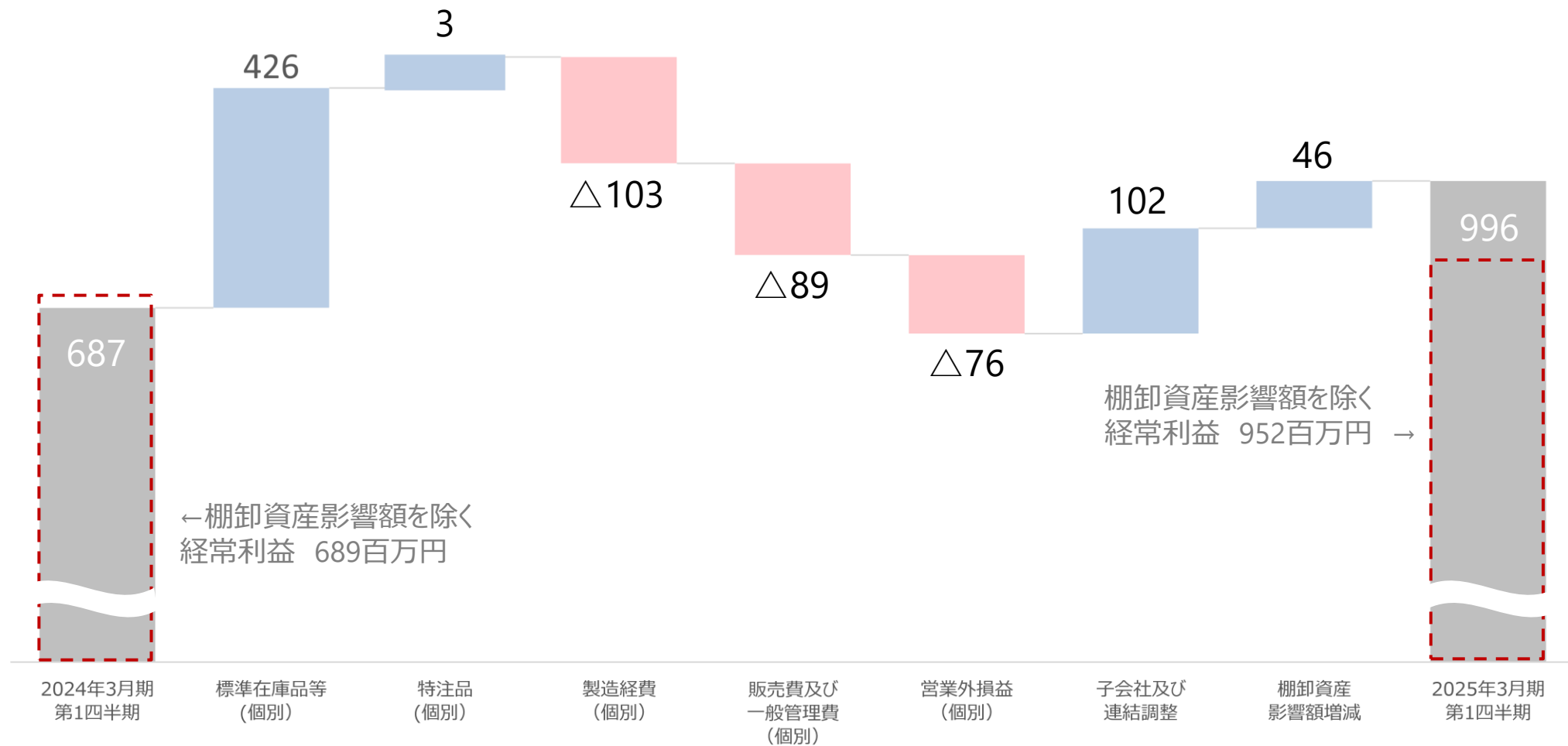
（単位：百万円）

セグメント		2024年 3月期 第1四半期				2025年 3月期 第1四半期			
		売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純損益	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 四半期純損益
	日本	12,937	548	678	457	13,490	855	909	613
	北米	1,154	△35	△37	△20	1,296	△31	32	31
	中国	296	△6	1	0	559	△5	3	2
	その他	328	44	44	35	399	50	51	41

経常利益の前年同四半期比差異要因

- 標準在庫品が、販売重量増加および販売単価上昇の影響で大きく増加。
- 運賃や電気料金をはじめとする販売重量単位当たりの各種コストは上昇しているものの、売上高増加の影響が大きく、前年同四半期比308百万円の増益となった。

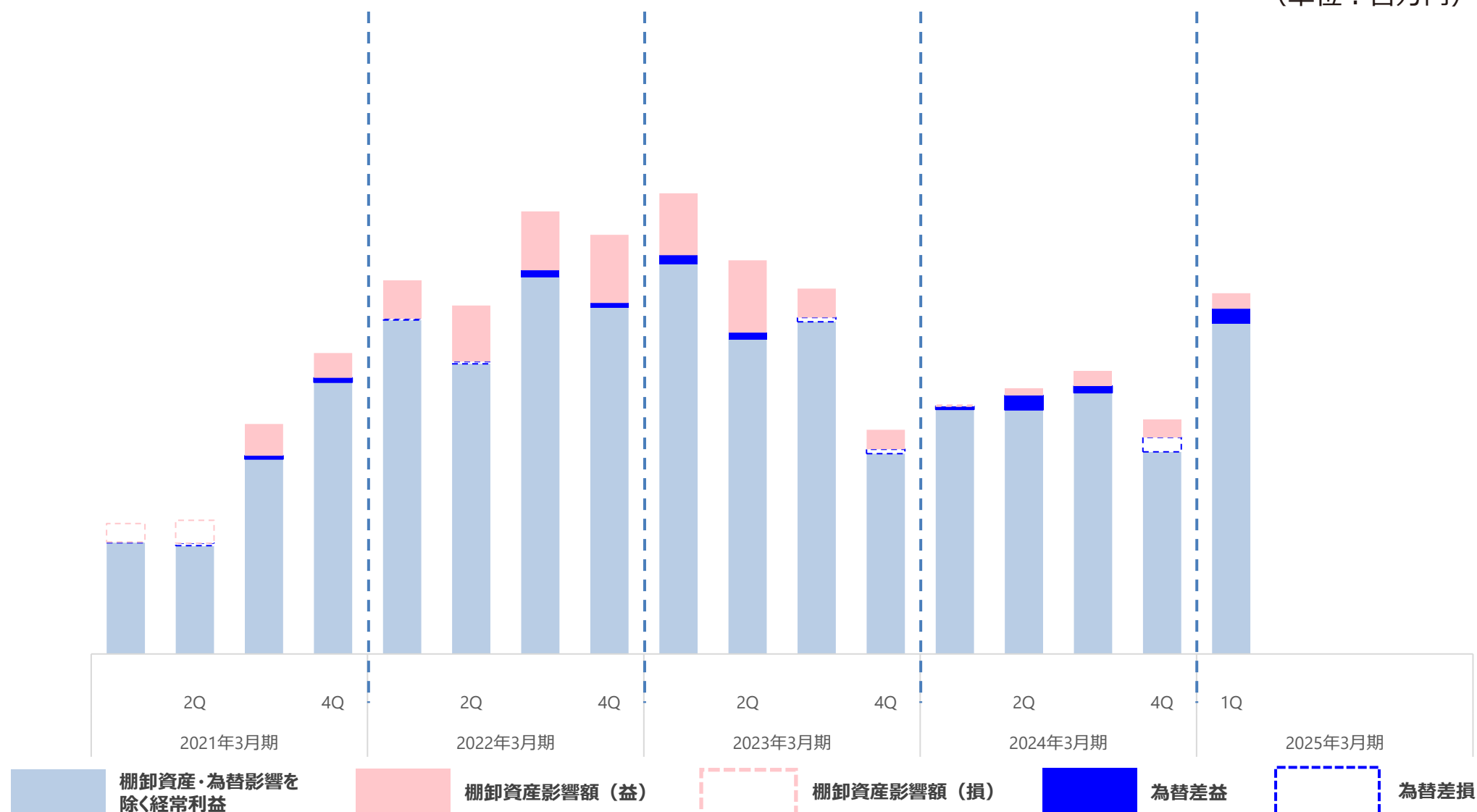
(単位：百万円)



経常利益の四半期毎推移

- 増収および棚卸資産影響額差益の増加により、前年1Q期間比308百万円の増益。
- 前四半期(4Q)対比においても、349百万円の増益。

(単位：百万円)



連結貸借対照表 (BS)

- 直近の売上高増加に伴い、受取手形及び売掛金・棚卸資産・買掛金が増加。

(単位：百万円)

資産の部	2024年3月末	構成比率	2024年6月末	構成比率	増減
流動資産	32,128	76.5%	34,408	77.5%	+2,280
現金及び預金	5,700	13.6%	5,850	13.2%	+149
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,052	38.2%	17,496	39.4%	+1,444
棚卸資産	10,221	24.3%	10,872	24.5%	+650
その他流動資産	153	0.4%	188	0.4%	+35
固定資産	9,887	23.5%	9,992	22.5%	+104
有形固定資産	6,653	15.8%	6,691	15.1%	+37
無形固定資産	1,422	3.4%	1,461	3.3%	+38
投資その他の資産	1,811	4.3%	1,839	4.1%	+28
資産合計	42,015	100.0%	44,400	100.0%	+2,384
負債及び純資産の部	2024年3月末	構成比率	2024年6月末	構成比率	増減
流動負債	19,420	46.2%	21,488	48.4%	+2,067
買掛金 (含 電子記録債務)	17,147	40.8%	19,043	42.9%	+1,895
未払金・未払費用	788	1.9%	1,337	3.0%	+549
未払法人税等	324	0.8%	340	0.8%	+15
その他流動負債	1,160	2.8%	767	1.7%	△392
固定負債	114	0.3%	98	0.2%	△15
負債合計	19,534	46.5%	21,586	48.6%	+2,052
純資産	22,481	53.5%	22,813	51.4%	+332
負債純資産合計	42,015	100.0%	44,400	100.0%	+2,384

流動資産 +2,280百万円

- 売上高増加による棚卸資産および売掛金の増加

固定資産 +104百万円

- 各種機械装置設備投資に伴う有形固定資産増加
- ドル建ののれん金額が円安の影響により2024年3月末比で増加 (+42百万円)

流動負債 +2,067百万円

- 売上高増加に伴う買掛金の増加

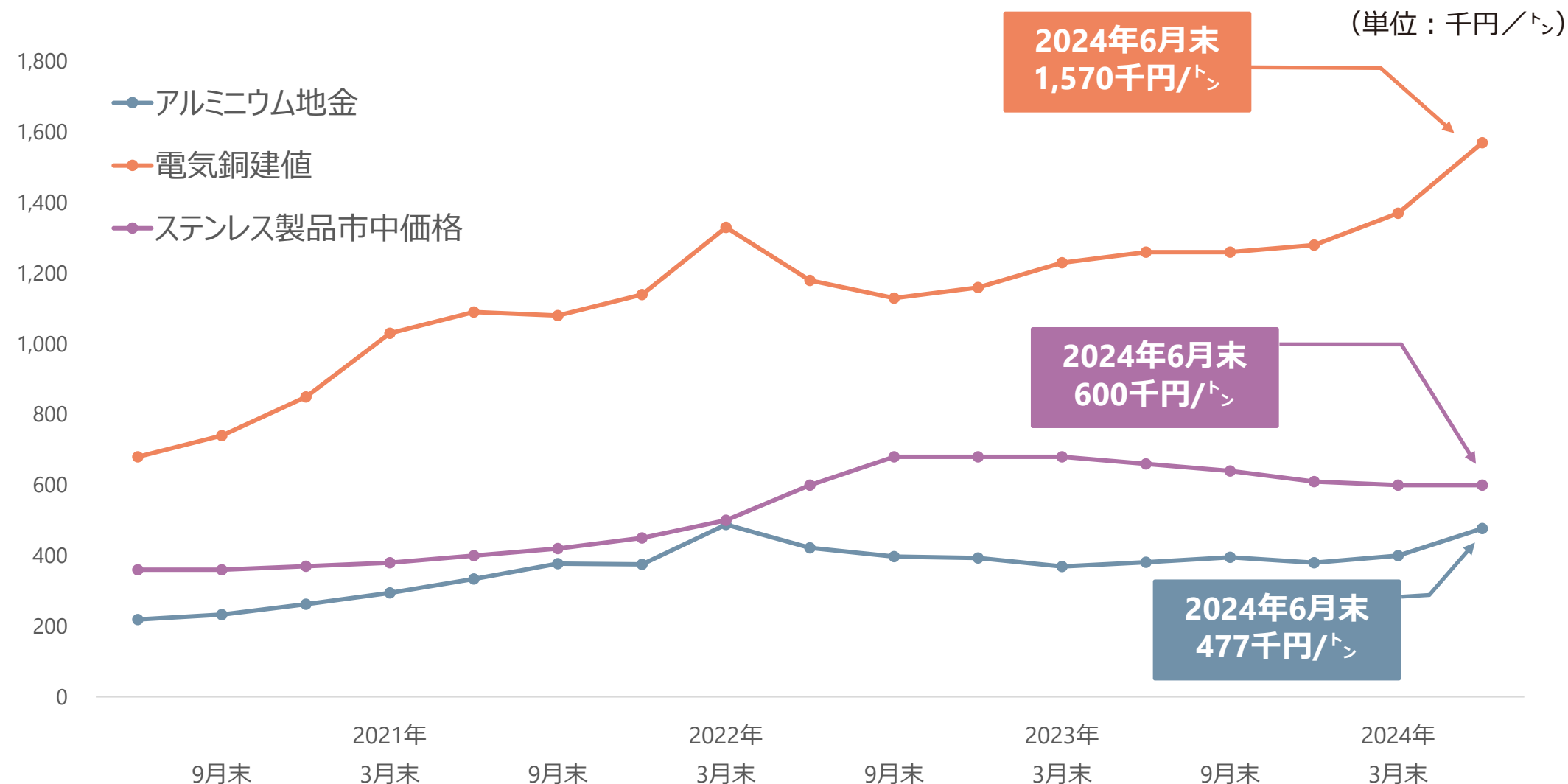
固定負債 △15百万円

- 1年超えリース債務減少

純資産 +332百万円

事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

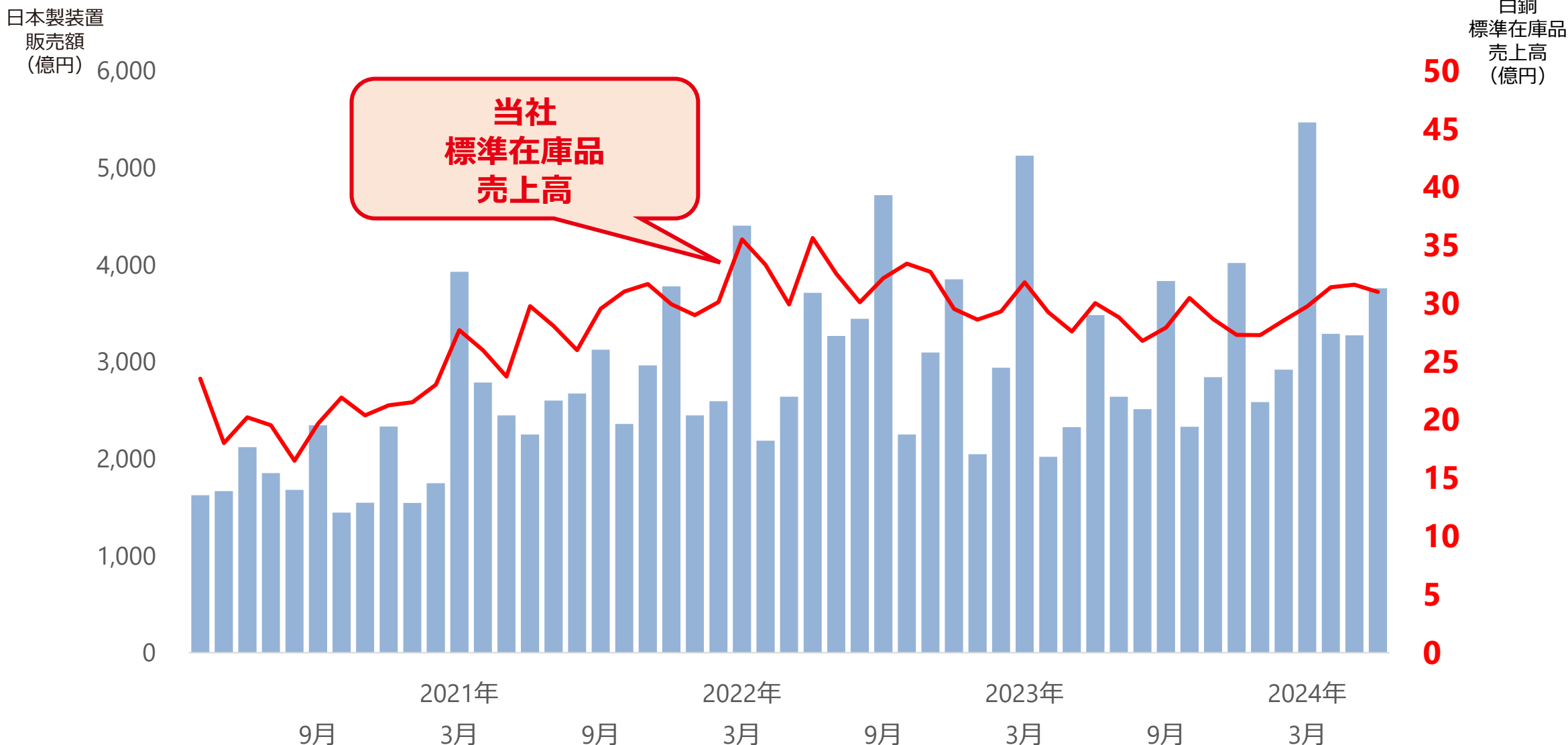
- アルミニウム地金の価格は2022年3月以降下落傾向であったが、直近は円安およびLME価格上昇等の影響により上昇。
- 電気銅建値は円安と需要期待から、引き続き上昇傾向。



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

- 生成AI向けおよび中国の半導体用設備投資需要の拡大を受けて一部回復の動きが見られ、半導体メーカーの在庫調整、生産調整は底を打ったと見られる。
- ただし直近の金利の上昇、為替相場の急激な変動等により先行きは不透明。

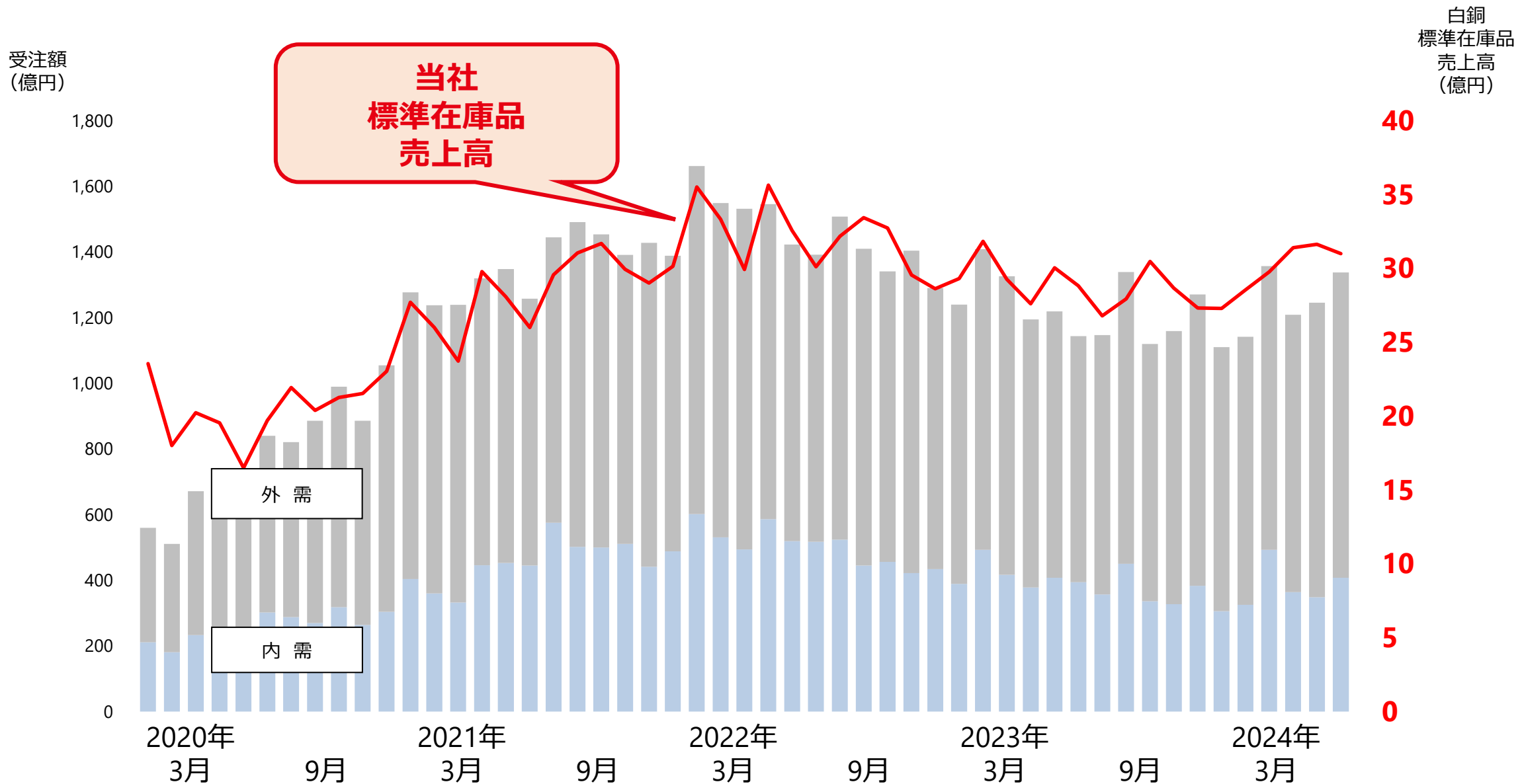


出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

2024 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境 (3) 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

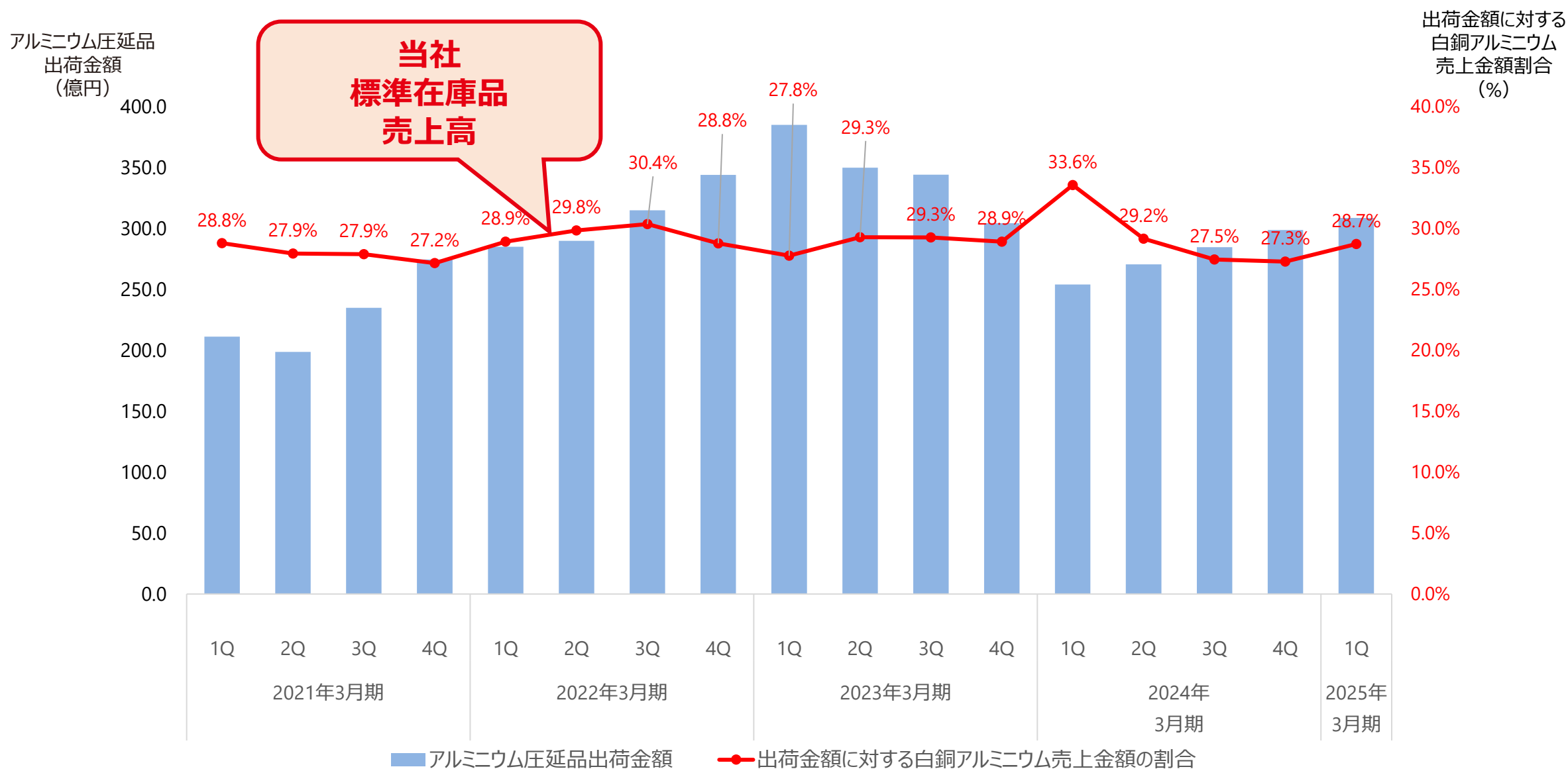
- 工作機械受注額は2022年3月をピークに下落傾向だったものの、直近では回復の兆候。
- 受注額は前年同四半期(4~6月)比で内需6.9%減少、外需5.3%増加。



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境 (4) アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は、引き続き30%前後で推移。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2. 2025年3月期 業績予想

2025年3月期 第2四半期 業績予想の上方修正

- 当第1四半期に半導体製造装置業界に一部回復の動きがみられたことや、地金価格が原材料市況の高騰と円安を受けて上昇したことから、業績が期初予想を上回り、第2四半期業績予想の上方修正を実施。
- 一方、直近の日本における金利上昇、為替相場や株価の急激な変動、および、原材料市況等先行きが不透明感なことを勘案し、通期業績予想は据え置きとした。

(単位：百万円)

	2025年3月期 第2四半期 前回発表予想	2025年3月期 第2四半期 今回修正予想	増減率	増減額	2025年3月期 通期予想 (修正なし)
売上高	30,800	31,800	3.2%	1,000	64,100
営業利益	1,400	1,560	11.4%	160	3,060
経常利益	1,500	1,780	18.7%	280	3,200
親会社株主に帰属する当期 純利益	1,000	1,220	22.0%	220	2,140

株主還元策（配当実績と予想）

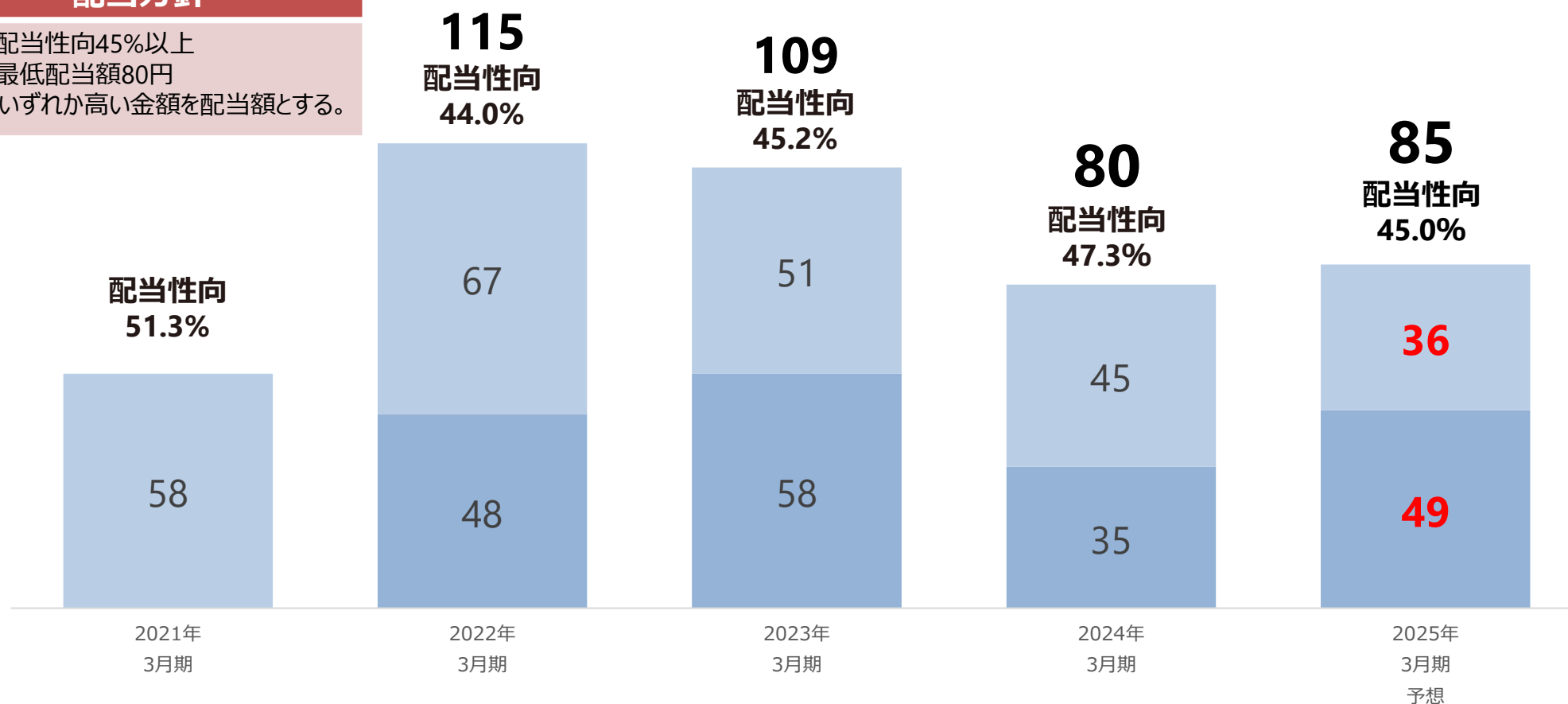
- 第2四半期の業績上方修正を踏まえ、中間配当は期初予想の1株あたり40円から9円増配の49円に変更。
- 尚、2025年3月期通期配当予想は1株あたり85円で据え置き。

2025年3月期 配当予想

(単位：円)

配当方針

- ・通期配当性向45%以上
- ・年間最低配当額80円
- 原則、いずれか高い金額を配当額とする。



下段 ■ が中間配当、上段 ■ が期末配当を示す。

※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

株主還元策（株主優待制度）

- 2024年1月より、基準日を毎年9月末から毎年3月末に変更。
- 保有単元数や付与されるポイントなどの基準日以外の変更はない。

株主優待制度

毎年3月末の当社株主名簿に記載又は記録された3単元(300株)以上保有の株主様を対象とし、保有株式数に応じてポイントを贈呈いたします。贈呈されたポイントは、株主様限定の特設ウェブサイト「白銅プレミアム優待倶楽部」において、5,000点以上の厳選された商品からお好きな商品、他のプレミアム優待倶楽部導入企業の優待ポイントと合算可能な共通株主優待コイン『WILL s Coin』に交換することができます。

株主優待ポイント表（1ポイント≒1円）

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株未満	0ポイント	—
300～399株	3,000ポイント	毎年5月
400～499株	5,000ポイント	
500～599株	10,000ポイント	
600～999株	20,000ポイント	
1,000～1,999株	30,000ポイント	
2,000～2,999株	40,000ポイント	
3,000株以上	50,000ポイント	

商品の一例



3. 重点戦略の実施状況

2025年3月期の取組予定

- 2025年3月期の重点戦略方針の主な取組予定は以下のとおり

中期経営計画で設定した重点戦略方針			2025年3月期 取組予定（一部抜粋）
ビジネスの進化による事業成長	①	白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上	✓ 取扱アイテム数の更なる拡充、粗利益の増大 ✓ 白銅ネットサービス（CSネットサービス含む）利用者数の増加 ✓ 海外子会社におけるECサービスの導入
	②	加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化	✓ 図面加工サービスの強化、自動見積機能の運用 ✓ レーザー加工機導入等による加工機能強化
	③	SCM改革による調達・供給能力の強化	✓ 省人化・工場平準化のための自動加工機の追加導入
	④	成長領域の拡大・営業強化	✓ 顧客ニーズのヒアリングと材料メーカーへの情報伝達 ✓ 新加工設備を活用した拡販 ✓ 新規休眠顧客・既存顧客を区別した営業活動の展開
	⑤	海外事業の拡大	✓ 米国子会社の事業拡大 ✓ 米国・韓国・台湾のさらなる投資先検討
経営基盤の強化	⑥	企業価値向上のためのデジタル基盤強化	✓ RPA・IoTを用いた業務効率化
	⑦	人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上	✓ ジョブ型を採り入れた人事制度の見直し ✓ 従業員満足度向上に向けた福利厚生の拡充
	⑧	戦略実現のためのPDCA管理強化	✓ 統合報告書の作成及び開示
	⑨	ガバナンスの強化	✓ JIS Q 27001の取得範囲拡大

重点戦略の実施状況

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

当社標準在庫品
約**5,400**アイテム
+
他社在庫品(取寄せ)
約**97,400**アイテム

※2024年6月末時点

ご利用企業様数
約**12,400**社様
ご登録ユーザー様数
約**24,800**名様

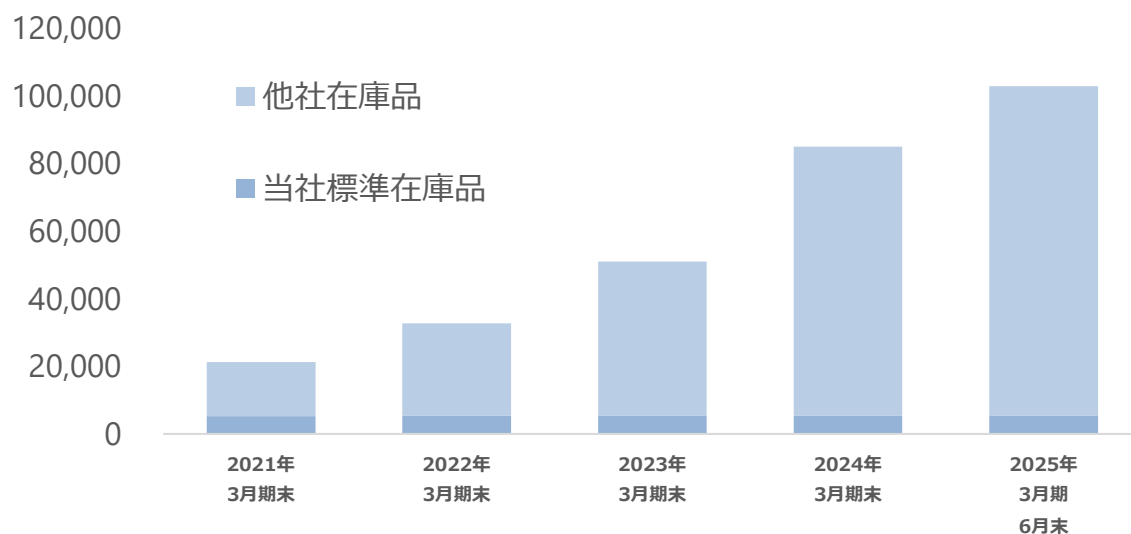
※CSネットサービスの登録件数を含む
※2024年6月末時点

海外ECパッケージ
タイ導入済み
中国・米国は
第2四半期に導入予定

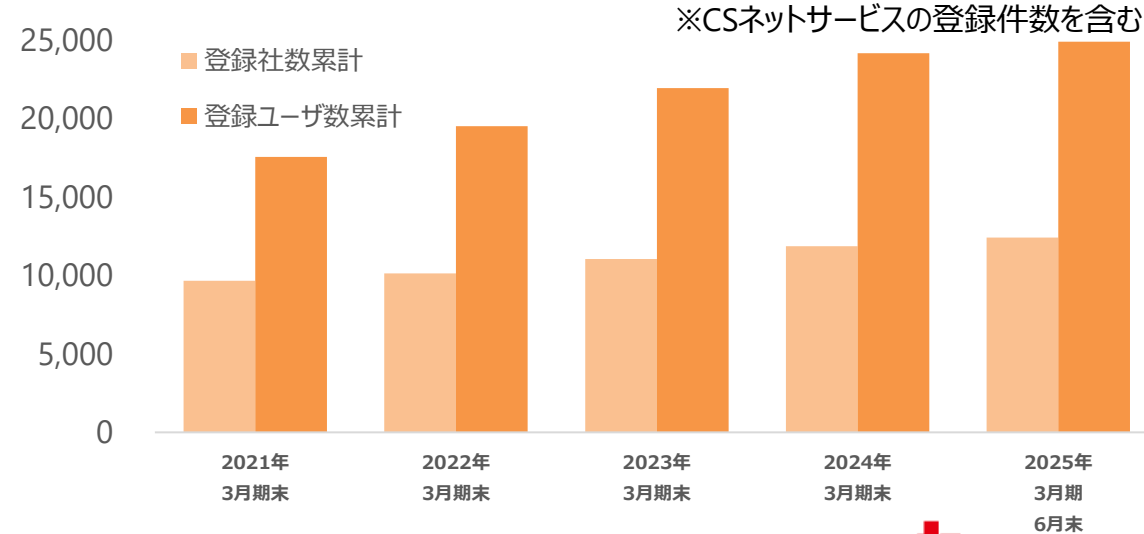
図面加工品にも対応
「金属3Dプリンター造形
見積・注文」
「図面描画」
「材料取りアシスト」



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービス ご利用登録社数推移（累計）】



あたらしい、を、素材から。



重点戦略の実施状況

(2) 成長領域の拡大



専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



新規顧客獲得

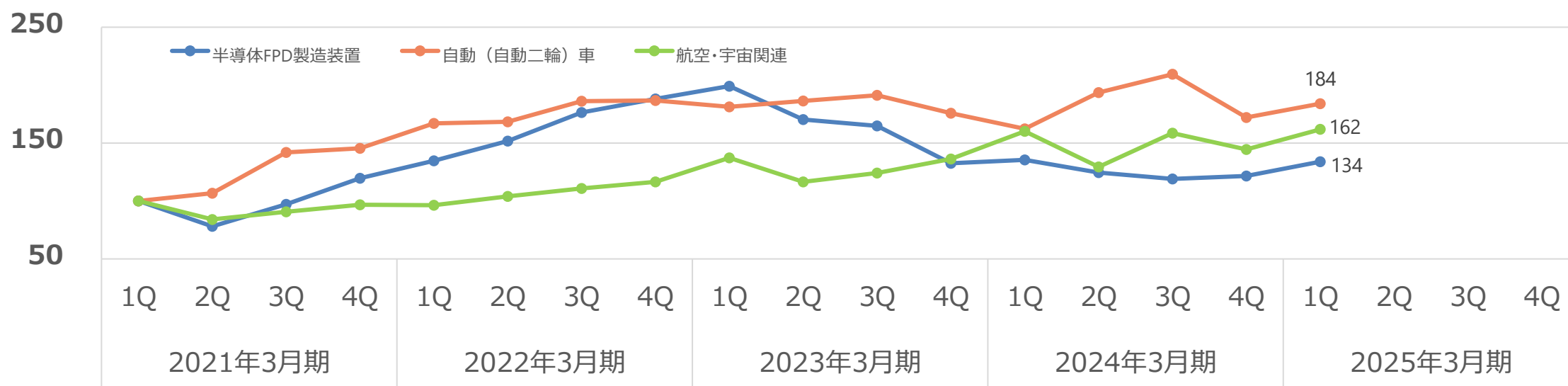
金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開



海外材輸入機能強化

WCAS社と連携し、海外メーカー製航空宇宙規格材の輸入機能を強化

【成長領域の売上高指数の四半期推移】 ※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移



重点戦略の実施状況

(3) 海外事業の拡大

- 2024年3月期時点で、中期経営計画3年目（2025年3月期）の目標値である白銅グループ海外売上高比率12%を前倒しで達成し、当第1四半期も継続して増加。

活動状況

◆ 各拠点の事業拡大

タイを中心に海外子会社でのEコマース事業の拡大を実施中。

東南アジアでは、ベトナムを中心に販売代理店パートナー経由の売上高拡大を目指す。

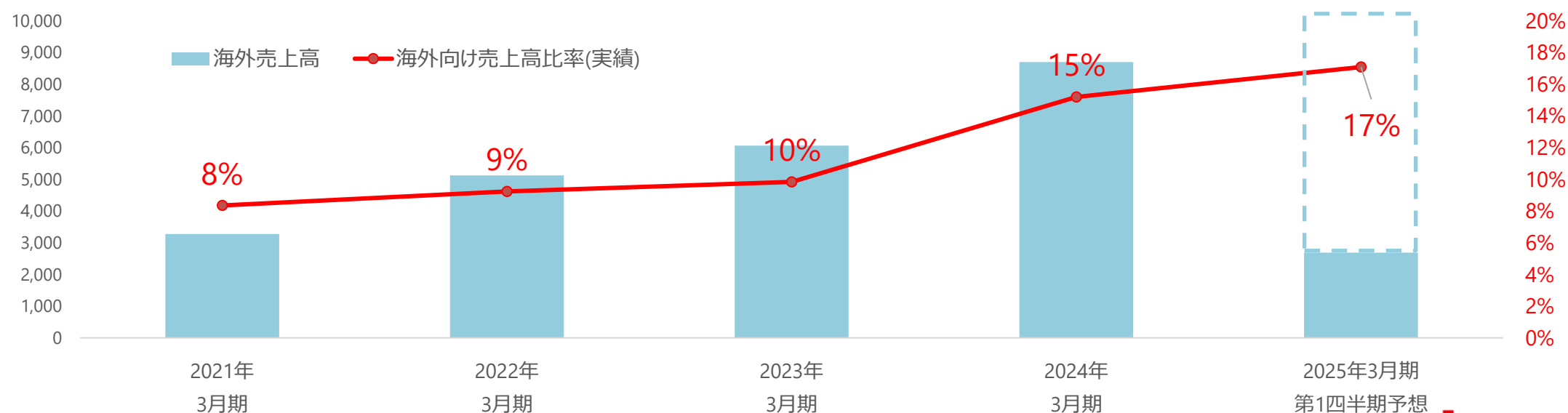
米国子会社での非鉄金属の輸入卸売・加工事業を開始済。またEコマース事業を第2四半期に開始予定。

◆ 出資・提携先の検討

米国・韓国・台湾を中心に、更なる投資先の検討および訪問、協議を実施中。台湾では、一部、試験的な取引開始済。

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

(単位：百万円)



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

4. サステナビリティ経営の取り組み

サステナビリティ経営の取組状況（1/3）



- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取り組み状況を下表に記載。取り組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中。
- CO₂排出量は2030年度までの削減目標を前倒しで達成。
- 滋賀工場への太陽光パネル設置や営業車におけるEV導入など、CO₂排出量削減に向けた取り組みを実施。太陽光パネルにおいては、2025年3月期中での福島工場への導入も決定。

マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第1四半期までの取組状況
1. 環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2030年度までに42%削減（2020年度対比） 2050年度までのカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策に着手	- CO₂排出量 - 自前施策により削減するCO₂排出量	✓ 福島工場への太陽光パネル設置準備 ✓ 電気自動車を計5台導入 ✓ CO₂排出量の削減目標達成(2020年度対比42%削減)
	製造効率の改善	- 天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献 ・配送効率改善 ・産業廃棄物削減 ・スクラップ率低下	- 消費電力量 - 運賃低減率 - 廃棄物金額 - 製造部門消耗品費	✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率の改善活動を実施 ✓ 設備の待機電力削減 ✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施 ✓ 環境に配慮した梱包資材の導入
	オフィスペーパーレス化の推進	- 資源の無駄を排除し、リサイクル化を推進 - コスト削減とともに、自然環境保護へ貢献	オフィス印刷費用	✓ 会議資料の電子化による印刷費用の削減
2. 責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	- 環境負荷に配慮した経営による社会貢献 - 環境負荷の少ない商品（ECO商品等）の安定供給	ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップ拡充
	グリーン調達促進	サプライヤーに白銅独自のグリーン調達ガイドラインの遵守協力を促進	グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数	✓ 取引先との覚書の取り交わし実施
	サプライヤーとの関係強化	- サプライヤーと協力し、CO₂削減に配慮した施策の実施 - サプライチェーン全体におけるCO₂削減を促進	- グリーンアルミ調達先発掘 - リサイクルアルミ調達先発掘	✓ CO₂排出量を抑えた“ECO63S四角棒”の販売 ✓ CO₂排出量を抑えた商品の導入検討
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を実施	自社における人権ポリシーの策定、運用	✓ 人権デューデリジェンスへの取り組み ✓ 白銅グループ人権方針の浸透活動 ✓ 人権ガイドラインの取引先への確認

サステナビリティ経営の取組状況 (2/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第1四半期までの取組状況
3. 社会への取り組み	次世代への貢献	● 日本のものづくりの発展や人材育成の支援 ● 次世代の技術の発展や人材育成への貢献	● 産学協働検討数	✓ 大学の研究室へ訪問し、協働可能な案件を模索 ✓ 学生向けの工場見学会の開催 ✓ 学生フォーミュラ・ロボコン大会参加学生への金属材料の提供支援
	社会への貢献	● 持続可能な社会への貢献 ● 従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業となるための取り組み	● 地域社会、団体への貢献活動	✓ 寄付の継続的实施 ✓ 社内の書籍を収集し、古本募金を実施
4. 人材への投資	従業員満足度向上	● 従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションの向上 ● 社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力の向上	● 離職率 ● 平均残業時間 ● 有給取得率 ● 男性の育休取得率	✓ 有給休暇の取得しやすい環境づくり ✓ 福利厚生に関するアンケートにもとづく、改善策の検討 ✓ スポーツクラブ利用促進のためのサポート継続
	ダイバーシティの促進	● 多様な人材を登用、活用し、組織の生産性や競争力を向上	● 障がい者雇用率 ● 女性管理職比率 ● 外国籍管理職比率	✓ 障がい者向けの職場体験実施により、継続的な雇用を促進 ✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討 ✓ 外国籍従業員の積極的な社員登用の実施
	健康で働きやすい環境の整備	● 従業員の心の健康、身体の健康を促進 ● 社会生活における充実度の向上	● 高ストレス者比率 ● ハラスメント発生件数 ● 労働災害度数率	✓ 健康経営の推進継続（健康優良企業「銀」取得） ✓ アンケート結果による高ストレス要因の分析 ✓ 専門家によるカウンセリングの実施 ✓ 職場巡視の強化によるヒヤリハットの未然防止
	社員教育の拡充	● 業務上で必要な知識・スキルの提供 ● 知識やスキルを身に着ける為の機会の提供	● 一人当たり教育費用	✓ 年間教育計画に基づく教育の実施 ✓ 新入社員研修の充実

サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期第1四半期までの取組状況
5. コーポレートガバナンス	コンプライアンス違反者ゼロ	● ゼロ・トーランスを目指した教育の実施	● コンプライアンス違反件数ゼロ	✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	● 各方針・ポリシーの遵守 ・白銅グループ人権方針 ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 ・社内環境整備方針 ・教育・育成方針	● 左記の方針・ポリシーの対応状況確認	✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ 教育動画を配信し、全従業員の遵守度向上を推進 ✓ 方針・ポリシーガイドブックの配付
	事業リスク・災害への対応強化	● 事業リスク評価とBCP見直しの徹底 ● 訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みの構築	● リスク評価ポイント ● 防災訓練等の実施数	✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 防災訓練実施
6. ESG/SDGs経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	● ESG/SDGsに対する意識の向上 ● ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントの実施	● ESG/SDGsの従業員定着率(アンケート調査による) ● エピソードコンテストの累計件数	✓ サンクスカード導入による、従業員の円滑なコミュニケーションを推進 ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配付・配信 ✓ 植林・環境系ボランティア活動の調査
7. ESG/SDGsに関連した新商品・新サービスの創出	商品・サービスの具現化	● 新商品・新サービスの創出	● 新商品・新サービスの導入件数	✓ CO₂オフセット関連の商品・サービスを検討中

サステナビリティ経営の取り組み例

白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。神奈川県横浜市と埼玉県三郷市に拠点を設け、2024年7月現在、12名の従業員が在籍しており、葉物野菜をメインに約30種類を栽培しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配付しています。

※ 2024年7月末時点の情報を元に作成

スーパーミニマム チャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材が使用され、2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が本気で制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟IBSF)

ご清聴ありがとうございました

■ 白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。
右記のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！



■ 本資料における注意事項

この資料には、2024年8月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp